

# 次世代型艇庫の先進的活用と 地方の魅力創生事業

## 2020 年度 事業報告書

2021 年 3 月  
B&G 財団 海洋センター・クラブ課

## 1. 目的

(1) 「艇庫」をこれまでの海洋性レクリエーションを行う施設としてだけでなく、青少年から高齢者、障害者に至る幅広い対象者に向けて、海洋性レクリエーションに止まらない複合的且つ多様な活動を生み出す拠点とすること。

(2) 実施地の風土や文化の魅力を生かした事業の創出を図ることにより、自治体の活性化及び地方創生を図ること。

## 2. 実施場所及び主な内容

### (1) 宮城県加美町

パラカヌーの拠点化と体験会の実施、パラスポーツの啓発教室等の実施、障害者の受け入れに対応した指導者の育成。

### (2) 徳島県阿南市

各種団体と連携し、海を中心とする周辺環境を活用したイベントの実施及び地域の特徴を生かした年間を通じた教室の実施。

### (3) 長崎県時津町

学校教育と連携した「里海 大村湾」を活用した海洋教育推進の拠点化に向けたイベントや体験会の実施。

## 3. 主な事業

### (1) 宮城県加美町

#### ① 「障害者カヌー」サポートスタッフ育成講習会

日時：2020年10月3日（土）

参加者：34名

※内訳：BG関係者18名／加美町関係者15名／障害者スポーツ指導員1名

本来であれば、障害者スポーツ全般の講義も絡めた内容にて、年3回の実施を目指していたが、コロナ禍で今年は1回のみの実施となる。今後、障害者団体からのカヌー体験の予約が増えてきた際には、講習会受講者のスキルアップも含めて積極的に現場でのサポート・指導を行ってもらえるよう、調整側である海洋センター及び自治体担当部局に働きかけていきたい。



## ②インクルーシブカヌー体験会

日時：2020年10月4日（土）

参加者：28名（うち障害18名）※その他、スタッフ30名+講師2名

今回の申し込み件数は、36件であった。そのうち15件の申し込みを受け付け、残りの21件はスタッフ数の都合でお断りせざる負えなかった。当初はコロナ禍であるため、限定10名の参加としていたが、予想を超える申し込みがあったため、2部制に分けて実施した。



## ③インクルーシブ教室 3回

日時、2020年11月7日（土）、12月11日（土）、2021年3月6日（土）

参加者：計55名（23名、24名、8名）

講師：東北文化学園大学准教授 佐藤敬広氏

	参加者	テーマ
1回目	中新田中学校カヌー部15名 宮崎中学校バレー部8名	「下肢身体障害」「シッティングバレー」
2回目	中新田中学校カヌー部16名 宮崎中学校バレー部8名	「視覚障害」「フロアバレー」「ブラインドジョギング」「伴走ロープ」
3回目	宮崎中学校バレー部8名 ※コロナの影響により中新田 中学から参加なし	障がい者とのスポーツ交流体験

1回目は猪股町長にもご視察頂いた。2中学校が同時に、また別々の部活動の子供たちが交わって何かをやることはないため、その切り口も面白い。また、教育面で共生やインクルーシブの内容を子供たちに提供することは重要であると話されていた。

2回目は町長の他、教育長にも視察頂いた。教育長から、内容が良いので、ぜひ町内3中学校の学校授業で導入したいとお言葉があった。

3回目は新型コロナの感染拡大による緊急事態宣言中であったため視察は出来なかったが、佐藤講師の下、障害者とのスポーツ交流を行った。次世代を担う子供たちに共生社会について学んでもらうことは意義深く、次年度以降も継続していく予定である。



※新型コロナの影響により、リバーサイドフェスティバルは中止

## (2) 徳島県阿南市

### ①ファミリーSUP デイキャンプ

日時：2021年3月14日（日）

参加者：25名 スタッフ30名

感染予防対策として参加人数上限を25名にし、事前の検温・消毒等をつ徹底の上実施。世界的なSUPレーサーであるケニー金子氏、水辺の安全教室では徳島ライフセービング協会の方に協力いただき、SUPによる定住人口増加を目指している阿南市において、SUPやカヌーなどの海レク体験を通し、親子での思い出作りの場を提供した。



### ③通年型教室

海辺のまなびや、天体観測、干物づくり、ドローン教室などを各種団体と定期的を開催し、海レクだけに止まらない活動を展開している。



海辺のまなびや プランクトンの観察



親子ドローン教室



囲碁・将棋サロン



ZUNBA 教室

※新型コロナの影響により、うみてらすフェスタ、ビーチセッションフェスタは中止

### (3) 長崎県時津町

#### ① マリンデーフェスタ in とぎつ

日時：2020年9月12日（土）

参加者：228名、スタッフ55名

実施内容

	ブース名	概要
①	海に親しむ	SUP・カヌー体験、バナナボート乗船
②	海を知る	大村湾に関するクイズ・水辺の安全に関するクイズ
③	海を守る	海ごみ啓発マンガの展示
④	海を利用する	ヨット模型作成・帆走体験

艇庫改修による里海「大村湾」を活用した学校教育での海洋教育実施の素地作りとして、より多くの地域住民に艇庫の存在を認識してもらうとともに、改修内容を周知するためのイベントとして、海洋教育のキーワードとなる「海に親しむ」「海を知る」「海を守る」「海を利用する」という4つのカテゴリに分けた各種体験を提供し、海に対する理解促進や海洋性レクリエーションの底辺拡大を図った。

前日までの雨が影響し、艇庫前の芝生広場が使用できず、一部の内容を体育館で行ったが、コロナの影響により町内のイベントが軒並み中止となる中、唯一のイベントとして親子で地元の海に親しんでいただくイベントとなった。



#### ② 教員対象艇庫体験会

日時：2020年8月17日（月）

参加者：教員19名、スタッフ14名

※教員内訳詳細 時津小 4名、東小 3名、北小 4名、鳴鼓小 5名

時津中 1名、鳴北中 1名、スポーツ推進員 1名

内容：水辺の安全教室・無人島横断、生物観察、海浜清掃、殉教の記念碑視察等  
町内の方でも渡ったことのない鷹島という土地や目の前に広がる大村湾は、生物観察だけでなく、殉教の地という歴史的な背景、海洋ごみ問題のフィールドとしてなど、教科を横断した様々な学びを子供たちに提供できるのではないかと考えている。その事前・事後の学習の場として、今年度増築される海洋センターの多目的室を活用していきたい。



### ③艇庫未体験者向け艇庫体験

日時：2020年9月29日（火）

参加者：15名

艇庫・プール・体育館が横並びに建設されている珍しい建設パターンであるため、普段体育館やプールを利用しているものの、艇庫は利用したことのない方向けに、新規利用者開拓に向けた事業として体験会を行った。

#### ○数値目標

【加美町】艇庫年間利用者 10,000人以上

【阿南市】艇庫年間利用者 17,000人以上(本部町を除く全国1位)

【時津町】艇庫年間利用者 1,300人以上

#### ○目標の達成状況

【加美町】艇庫年間利用者人数：5,530名

【阿南市】艇庫年間利用者人数：15,392名（本部町を除く全国1位）

【時津町】艇庫年間利用者人数：1,609名

#### ○まとめ

2020年度は新型コロナウイルス感染拡大から、連携自治体の判断により一部の大規模イベントが実施不可となった。

宮城県加美町・徳島県阿南市では、艇庫改修の翌年度となり、周知活動に力を入れたい年であったため、イベントの開催不可は住民への周知不足に繋がり、目標としていた利用者人数には達しなかった。

しかしながら、加美町ではインクルーシブスクールという共生社会実現に向けた地元中学生を対象にした新たな取り組みや、阿南市では地元企業と連携した通年型教室が定期的に行われ、地元に着目した事業が小規模ながら展開している。

次年度は加美町・阿南市が最終年度、時津町が改修後の年度という大事な局面を迎える。コロナ禍であることには変わりはないが、感染状況を注視しながら夫々の自治体で目標とする障がい者スポーツの拠点、他団体と連携、海洋教育推進の拠点化に向け取り組んでいく。

以上